

## 家庭背景による計算力の差、子どもの基礎学力の価値観で縮小する可能性

### 「勉強の基礎は重要」や「計算力に自信」で一6か国国際調査から

スプリックス教育財団 基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査 2025

公益財団法人スプリックス教育財団（本部：東京都渋谷区／代表理事：常石 博之）は、基礎学力に対する意識の現状を把握することを目的に、「基礎学力と学習の意識に関する保護者・子ども国際調査2025」を実施しました。報告では、**家庭の社会経済的背景（SES）による計算力の差を克服する要因（レジリエンス）を探る**ことを目的として、**子どもの基礎学力に関する価値観に着目して、計算力とSESとの相関を分析**しました。6か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国、日本）を対象に分析した本調査のポイントは以下の通りです。

#### 調査結果のポイント

##### ① 日本は「勉強の基礎は重要」など基礎を重視する一方で、「計算力に自信」といった肯定感は控えめ

6か国の小学4年生に「勉強の基礎は重要」「計算力は大切」といった**基礎学力の重視**について尋ねたところ、日本は他の5か国と同様に7割以上が強く肯定しており、**日本の子どもは基礎学力を重視する傾向**が示されました。一方で、「**計算力に自信がある**」「**計算が好き**」といった**計算の肯定感**については、日本は他の5か国を下回りました。**日本の子どもは基礎学力を重視する一方で、自身の計算に対する肯定感が控えめである**ことが明らかになりました。

##### ② 日本や他の5か国でも、SESによる影響を縮小する傾向

**低SESと高SESの計算力の差は大きく、基礎学力の重視や計算の肯定感だけではSESによる計算力の差を乗り越えることは難しい**ことがわかりました。しかしながら「**勉強の基礎は重要**」「**計算力に自信がある**」と強く肯定した子どもは、どのSES層においても**計算力が高く、SESによる影響を縮小する傾向**がみられました。この傾向は、**日本だけでなく他の5か国でも共通**して見られました。

## 調査の背景

以前の報告で、「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」といった**SES（家庭の社会経済的背景）が計算力と相関がある**ことを示しました（[「計算力と家庭の社会経済的背景に関する国際調査」スプリックス教育財団 参照](#)）。家庭環境によって生じる差は、学校などの外部環境で直接改善することは困難です。しかし、計算力などといった**基礎学力は、本来家庭環境によらず一定以上のレベルに到達**することが期待されます。SESによる影響を乗り越えるために、公教育や学外学習ではどのような支援を行うべきなのでしょう。スプリックス教育財団では、本調査を通じて**計算力と相関がある価値観を明らかにし、SESによる影響を克服するレジリエンス（困難に立ち向かう力）には何があるのか**を探る足掛かりとしたいと考えています。

前回の報告（[「算数の勉強で悩みは少ない日本。しかし家庭環境により差 6か国国際調査」スプリックス教育財団 参照](#)）では、**計算力向上の妨げ**となる要因として「**算数の勉強で抱える課題**」を調査し、**課題を抱える子どもほど計算力が低い傾向**があることを示しました（SES指標の定義については、前回の報告をご参照ください）。

今回は、**基礎学力に関する価値観**に着目し、**計算力を向上させ、SESによる影響を乗り越える可能性**について検証します。「**計算力は大切**」や「**勉強の基礎は重要**」といった「**基礎学力の重視**」の価値観や、「**計算力に自信がある**」や「**計算が好き**」といった「**計算の肯定感**」のような価値観は、**学習意欲を向上**させる可能性があります。今回の報告では、基礎学力に関する価値観がSESや計算力とどのような相関を示すかを、日本と日本以外の5か国と比較しながら検証しました。その上で今後、**子どもの価値観を育むことがSESによる影響を縮小し、計算力を底上げするための具体的な支援策となりうるかを**、検証していく足掛かりとすることを目的としています。

## 調査方法

- 【調査時期】** 2025年4月～7月
- 【調査対象国】** パネル調査：アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国（計5か国）  
学校調査：日本
- 【対象者】** 小学4年生（以下、小4）および中学2年生（以下、中2）。  
本文内では主に小4の結果について解説します。中2の結果については付録のPDFをご参照ください。
- 【サンプル数】** パネル調査：合計1,500組（各国各学年150組）  
学校調査：小4 約200組。中2はサンプル数が少ないため省略
- 【調査方法】** パネル調査：インターネットパネル調査によるランダム抽出  
学校調査：1学年あたり1～数校の学校および自宅での調査。保護者の回答は任意。
- 【分析方法】** **SES**：「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」の4指標を国別学年別に統合・正規化した合成SES指標を使用。詳細は[第12回報告の付録PDF](#)を参照。  
**計算力**：計算テストの正答率が高い順に国別学年別に高位・中位・低位の3層に分類した計算力層を使用。

※ 学校調査（日本）では、回答者はランダムに抽出されたものではありません。そのため、便宜上「国名」として記載していますが、特定の地域や学校の結果であることにご留意ください。

※ 日本のデータは匿名性保持のため、正確な調査対象者数を非公表としています。

※ 本報告では、日本の調査結果をインターネットパネル調査の5か国合計（以下パネル5か国と記載）との比較を中心に報告しています。

※ 本リリースに関する内容をご掲載の際は、必ず「スプリックス教育財団調べ」と明記してください。

## 調査結果

### ① 日本は「勉強の基礎は重要」など基礎を重視する一方で、「計算力に自信」といった肯定感は控えめ

「基礎学力の重視」や「計算の肯定感」といった**基礎学力に関する価値観**の違いは、**計算力を向上させ、SES（家庭の社会的経済的背景）による影響を乗り越える要因として機能する可能性があります**。では、日本や各国の小学生は、**基礎学力をどの程度重視しているのでしょうか**。次の**基礎学力の重視**に関する設問に「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」のいずれかで回答していただきました。

質問「勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。」

- ・ 計算力は大切
- ・ 勉強の基礎は重要
- ・ 苦手教科も基礎レベルの習得は大切

日本およびパネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）の**小学4年生が基礎学力の重視**に関する設問に「そう思う」と回答した割合（強い肯定率）を図1(a)に示します。日本はパネル5か国と同様7割以上が「そう思う」と強く肯定しました。**日本の子どもは基礎学力を重視する傾向**が示されました。

では、自分自身の計算力にはどの程度自信があるのでしょうか。続けて、**計算の肯定感**に関する設問にも同様に、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」のいずれかで回答していただきました。

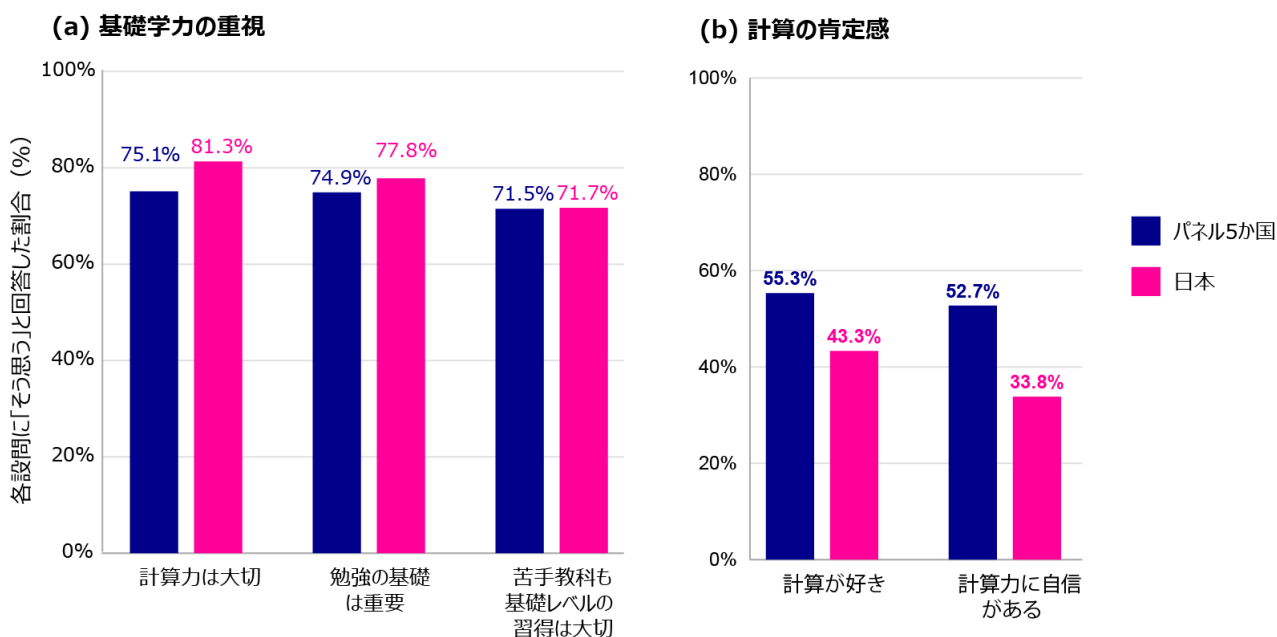


図1：基礎学力に関する価値観「(a) 基礎学力の重視」「(b) 計算の肯定感」（小学4年生）  
パネル5か国はアメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国。

質問「勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。」

- ・ 計算が好き
- ・ 計算力に自信がある

日本およびパネル5か国（アメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国）の小学4年生が計算の肯定感に関する設問に「そう思う」と回答した割合（強い肯定率）を図1(b)に示します。「計算が好き」「計算力に自信がある」といった**子ども自身の計算の肯定感**に関しては、パネル5か国は5割以上が「そう思う」と強く肯定したのに対し、日本は5割を大きく下回りました。

日本の子どもは基礎学力を重視する一方で、**自分自身の計算に対する肯定感が控えめである**ことが明らかになりました。

## ② 日本や他の5か国でも、SESによる影響を縮小する傾向

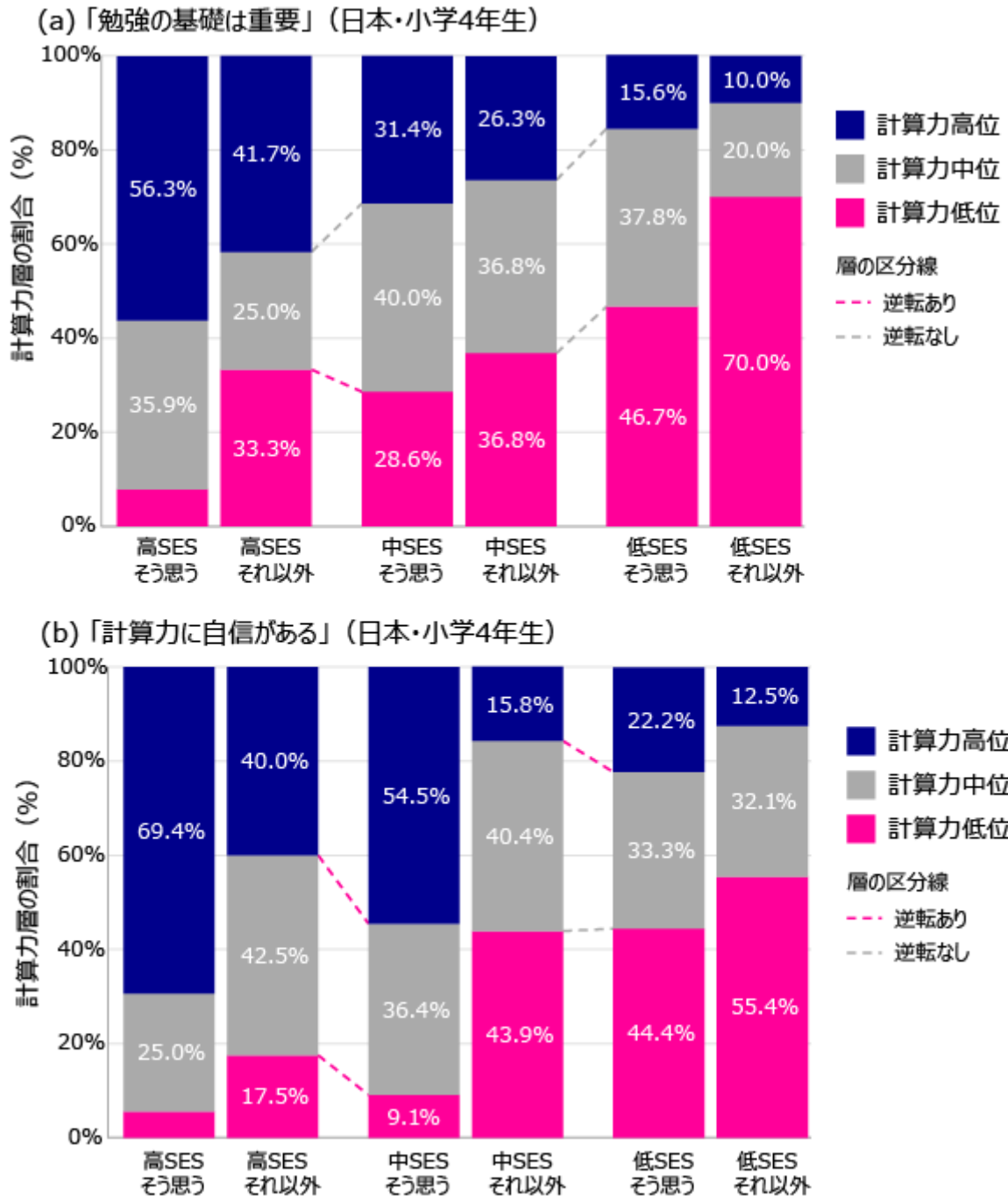
次に特徴的な設問に絞って、SESや計算力とどのような相関を示すかを分析し、その可能性を検証します。ここでは、日本に絞って見ていきます。図2に「(a)勉強の基礎は重要」「(b)計算力に自信がある」に対して「そう思う」と回答した日本の小学4年生の割合を計算力層別・SES層別に示します。

まず、図2(a)の「**勉強の基礎は重要**」について見ていきます。SESの層別を見ると、「そう思う」と回答した場合、「それ以外の回答」の場合に比べて、計算力高位が増え、計算力低位が減るという傾向が見られます。いずれのSES層でも、「**勉強の基礎を重視するほど計算力が高い傾向**」があると言えます。

図2(a)「勉強の基礎は重要」で隣り合ったSES層で比較すると、「高SESでそれ以外」と「中SESでそう思う」では、「中SESでそう思う」のほうが計算力の低い割合が減少しています。これは、**基礎を重視する価値観がSESによる影響を縮小している**可能性を示唆しています。しかし、計算力が高い層の割合は逆転していません。また、「低SESでそう思う」と「高SESでそれ以外」では計算力高位である割合は15.6%と41.7%という大きな差があります。**低SESと高SESの計算力の差は基礎を重視するだけでは越えられない**ことがわかります。

次に、図2(b)の「**計算力に自信がある**」について見ていきます。SESの層別を見ると、「そう思う」と回答した場合、計算力高位が増え、計算力低位が減るという傾向が同様に見られます。これは、いずれのSES層でも、「**計算力に自信があるほど計算力が高い傾向**」があると言えます。

図2(b)「計算力に自信がある」で隣り合ったSES層で比較すると、「高SESでそれ以外」と「中SESでそう思う」では、「中SESでそう思う」のほうが計算力の高い傾向にあります。これは、**自信の有無がSESによる影響を縮小している**可能性を示唆しています。しかし、「低SESでそう思う」と「高SESでそれ以外」では、計算力高位である割合が22.2%と40.0%という大きな差があります。**低SESと高SESの計算力の差は自信の有無だけでは越えられない**ことがわかります。



※「それ以外」は「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」を回答した合計。

図2：SES層別・設問の回答別にみた計算力層の割合「(a) 勉強の基礎は重要」「(b) 計算力に自信がある」(日本・小学4年生)

設問の回答は、「そう思う」と「それ以外(ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない)」に分類。SES層は「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」を国別学年別に統合・正規化した合成指標により高・中・低の3層に分類。計算力層は、計算テストの正答率が高い順に国別学年別に高位・中位・低位の3層に分類。設問の回答により、SES層間で計算力高位や低位の割合が逆転している箇所は、ピンクの区分線で示す。

日本においては、「勉強の基礎は重要」といった**基礎学力の重視**や、「計算力に自信がある」といった**計算の肯定感**の両方において、**それだけではSESによる計算力の差を乗り越えることは難しいこと**がわかりました。しかしながら、**SESによる計算力の差を縮小する傾向**がみられ、基礎学力の重視や計算の肯定感といった子どもの**基礎学力に関する価値観**を育むことが**SESによる影響を縮小し、計算力を底上げできる可能性**が示唆されました。

なお、日本のデータは特定の地域における調査であり、一部の層でサンプル数（N数）が限定的であるため、その結果は傾向を示す参考値として捉える必要があります。しかし、より大規模なサンプル調査である**パネル5か国においても同様の傾向**が確認されました。**パネル5か国**では日本に比べて**SESとの相関が小さい傾向**があり、**基礎学力に関する価値観がSESによる計算力の差を縮小する可能性**が示唆されました。パネル5か国の結果の詳細については付録のPDFをご参照ください。

## まとめ

本報告では、基礎学力に関する価値観について興味深い結果が得られました。**日本**においては、「勉強の基礎は重要」など**基礎を重視する傾向**を示す一方で、「計算力に自信がある」などの子ども自身の**計算の肯定感**は低い傾向が明らかになりました。

また、**計算に自信があるほど、基礎学力を重視しているほど、計算力が高い**という傾向が示されました。基礎学力に関する価値観が、学習意欲の向上を促し、計算力を高めている可能性があります。「勉強の基礎は重要」のような基礎学力を重視する価値観は、計算力の高低に関わらず培われうるものです。こういった**低SES層の子どもたちに基礎学力の重要性を伝え、基礎学力に関する価値観を育むことが、計算力向上の一助となる可能性**があります。

しかしながら、**低SES層は基礎学力を重視していたとしても、基礎学力を重視していない高SES層には及ばないこと**もわかりました。**基礎学力に関する価値観を育む以外にも低SES層への支援が依然として必要**です。また、本調査では因果の方向性は確認することができません。特に「計算力に自信がある」については、計算力が高いことの結果として自信が生まれている可能性も十分に考えられます。そのため、当財団では**経年調査**を行い、**学習における価値観と計算力の推移**の分析を今後も進めていく考えです。

なお、**パネル5か国では日本以上に基礎学力に関する価値観がSESによる計算力の差を縮小している傾向**も見られました。詳細は付録PDFをご参照ください。日本とそれ以外の国での違いについても今後検証を進め、各国における特徴と課題を明らかにしていきたいと考えています。

スプリックス教育財団では、今後も基礎学力に関する価値観と計算力の関係を継続的に検証し、SESによる影響を乗り越えるレジリエンス（困難に立ち向かう力）の解明に取り組んでまいります。

## <補足> 計算テストの内容

本調査で実施した計算テストは、参加方法によって内容が異なります。

- 学校調査：学校の教室において、国際基礎学力検定TOFASの計算テストを受験。  
TOFASは受験する学年・レベルによって問題数や難易度が異なります。
- パネル調査：TOFASの問題を一部抜粋した短縮版（全32問）を実施。

そのため、両グループ間で正答率を直接比較することはできません。

出題される問題は、学年に応じた基礎的な計算問題です。例えば、小学4年生では「 $43 \times 2$ 」、中学2年生では「 $(5x-9)-(-x-4)$ 」といった内容が含まれます。

TOFAS（国際基礎学力検定）の詳細はこちら（<https://tof.as.education/jp/>）よりご確認ください。

## ニュースリリースに関するお問い合わせ先

公益財団法人スプリックス教育財団 担当：調査窓口 秦・三村

所在地：〒150-6222 東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージSHIBUYAタワー22F

URL: <https://sprix-foundation.org/> E-mail: [survey@sprix-foundation.org](mailto:survey@sprix-foundation.org)

# 付録

## 調査方法の詳細

(1) 調査会社（株式会社クロス・マーケティング）が実施したインターネットパネル調査。WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により計算テスト（子どものみ対象）および意識調査（保護者と子ども対象）に回答。

(2) 株式会社スプリックスが実施した国際基礎学力検定TOFASを調査時期の期間内に受験した者のうち有志の学校。児童・生徒は学校の教室にて、保護者は自宅等で、WEB（パソコン・タブレット・スマートフォン等）により回答。

## 備考：調査項目※今回報告した項目のみ記載

**質問文1**：勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。／計算が好き（小中学生向け）

**選択肢1**： そう思う/ややそう思う/どちらともいえない/あまりそう思わない/そう思わない

**質問文2**：勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。／計算力には自信がある（小中学生向け）

**選択肢2**： そう思う/ややそう思う/どちらともいえない/あまりそう思わない/そう思わない

**質問文3**：勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。／計算力は大切だと思う（小中学生向け）

**選択肢3**： そう思う/ややそう思う/どちらともいえない/あまりそう思わない/そう思わない

**質問文4**：勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。／勉強の基礎を身につけておくことは重要だと思う（小中学生向け）

**選択肢4**： そう思う/ややそう思う/どちらともいえない/あまりそう思わない/そう思わない

**質問文5**：勉強に関する以下の文章について、あなたはどの程度そう思いますか。／苦手な教科についても基礎的なレベルまでは押さえておくことが大切だと思う（小中学生向け）

**選択肢5**： そう思う/ややそう思う/どちらともいえない/あまりそう思わない/そう思わない

**質問文6**：差し支えなければ、2024年の世帯年収をお知らせください。（保護者向け）

**選択肢6**：わからない、回答したくない/0-99万円/100-199万円/200-299万円/300-399万円/400-499万円/500-599万円/600-699万円/700-799万円/800-899万円/900-999万円/1000-1099万円/1100-1199万円/1200-1299万円/1300-1399万円/1400-1499万円/1500-1599万円/1600-1699万円/1700万円以上

(上記は日本の例。国により通貨やレンジが異なるため、今回は「国別学年別」で層に分割して分析に利用した。)

**質問文7**：お子様の習い事にかけている費用は、1か月当たりどのくらいですか。(保護者向け)

**選択肢7**：わからない、回答したくない/習い事はしていない/5000円未満/5000円-1万円未満/1万円-2万円未満/2万円-3万円未満/3万円-4万円未満/4万円-5万円未満/5万円-6万円未満/6万円-7万円未満/7万円-8万円未満/8万円-9万円未満/9万円-10万円未満/11万円-15万円未満/15万円-20万円未満/20万円以上

(上記は日本の例。国により通貨やレンジが異なるため、今回は「国別学年別」で層に分割して分析に利用した。「習い事はしていない」は、教育費を0円とみなした。)

**質問文8**：あなたの家には、およそどのくらい本がありますか。※一般の雑誌、新聞、教科書は数えません。(小中学生向け)

**選択肢8**：ほとんどない(0~10冊)/本棚1つ分(11~25冊)/本箱1つ分(26~100冊)/本箱2つ分(101~200冊)/本箱3つ分以上(200冊より多い)/わからない/答えたくない

**質問文9**：あなたが最後に卒業した学校を教えてください。(保護者向け)

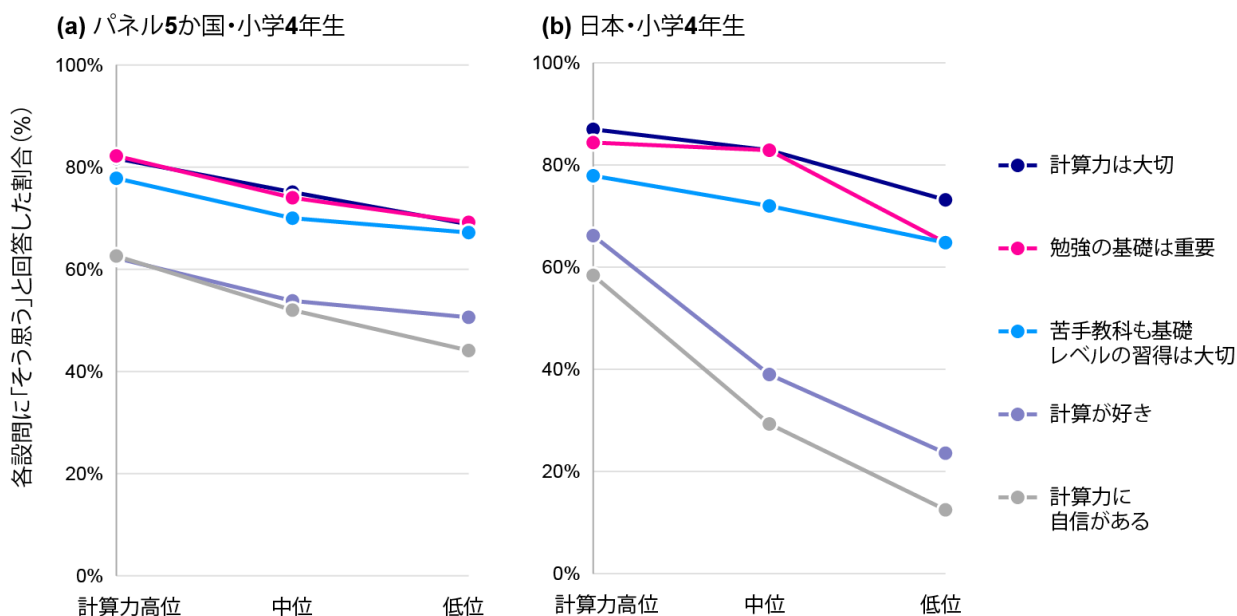
**選択肢9**：あてはまらない/小学校/中学校/高等学校/短期大学、高等専門学校、専門学校/大学/大学院/その他

**質問文10**：配偶者・パートナーが最後に卒業した学校を教えてください。(保護者向け)

**選択肢10**：あてはまらない/小学校/中学校/高等学校/短期大学、高等専門学校、専門学校/大学/大学院/わからない/その他

## 詳細報告

本文中では省略した**パネル5か国・小学4年生**の結果を中心に、基礎学力に関する価値観と計算力・SESとの相関を報告し、改めて**基礎学力に関する価値観がSESによる計算力の差を縮小する可能性**について詳細に検証します。パネル5か国ではSESとの相関が計算力との相関と比べると小さい傾向があり、日本よりも「基礎学力を重視している」「計算の肯定感が高い」ほど、SESによる計算力の差を縮小し



**図A1：基礎学力に関する価値観と計算力の相関（小学4年生）**

計算力層は、計算テストの正答率が高い順に国別学年別に高位・中位・低位の3層に分類。(a)パネル5か国はアメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国。(b)日本。

ている傾向が確認されました。

**① 基礎学力に関する価値観と計算力の相関：パネル5か国に比べ、日本は計算の肯定感と計算力の相関が強い傾向**

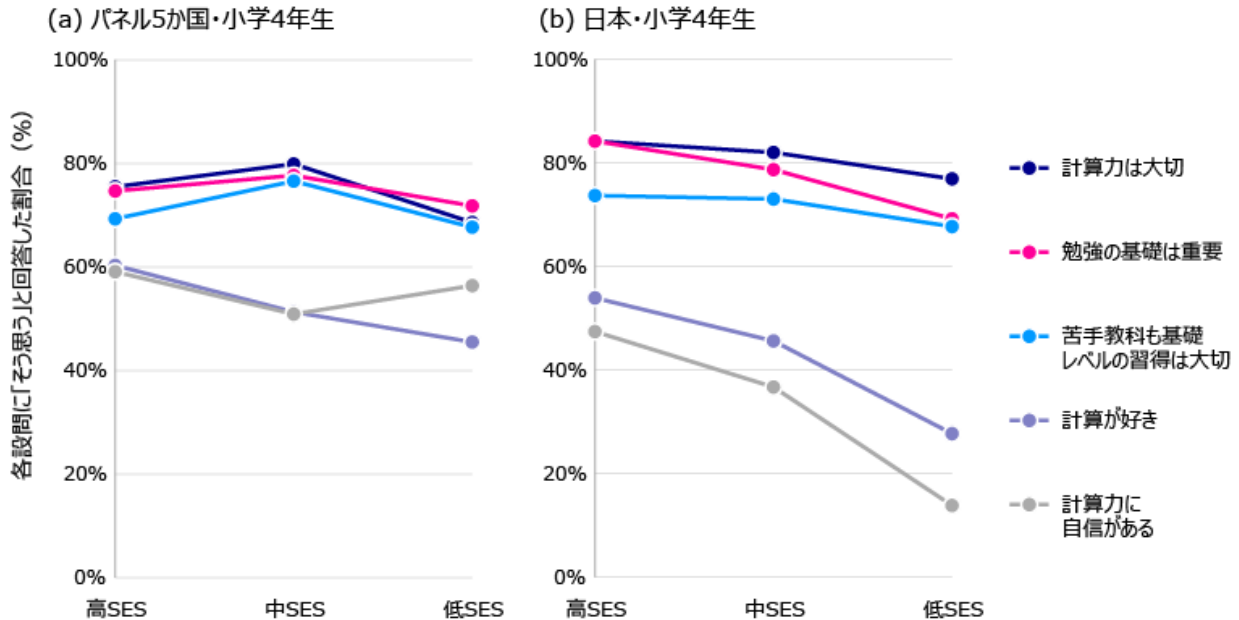
子どもの**基礎学力に関する価値観**について、「**そう思う**」と強く肯定した割合と**計算力層の相関**を図A1に示します。

パネル5か国・日本ともに全設問において**計算力が高い層ほど「そう思う」割合が高く**、正の相関が示されました。しかし、**パネル5か国ではその傾斜に大きな差がない**一方で、日本では**計算の肯定感**に関する設問（計算が好き、計算力に自信がある）では**計算力高位層と低位層の差が特に大きく、基礎の重視**に関する設問と明確に差が開きました。**日本では「計算力の高さ」と「自分自身の計算の肯定感」の相関がより強い傾向**があると言えます。

**② 基礎学力に関する価値観とSESの相関：パネル5か国に比べ、日本は基礎学力に関する価値観とSESの相関が強い傾向**

子どもの**基礎学力に関する価値観**について、「**そう思う**」と強く肯定した割合と**SES層の相関**を図A2に示します。

**パネル5か国ではSES層間の差が小さく**、中SES層が高SES層を上回る設問もあるなど、「**基礎学力に関する価値観とSESの相関**」ははっきりとは見られませんでした。一方の**日本**では、「**計算力に自信がある**」のSES層間の差がやはり大きく、「**計算が好き**」と合わせて**計算の肯定感とSESとの相関が強**



図A2：基礎学力に関する価値観とSESの相関（小学4年生）

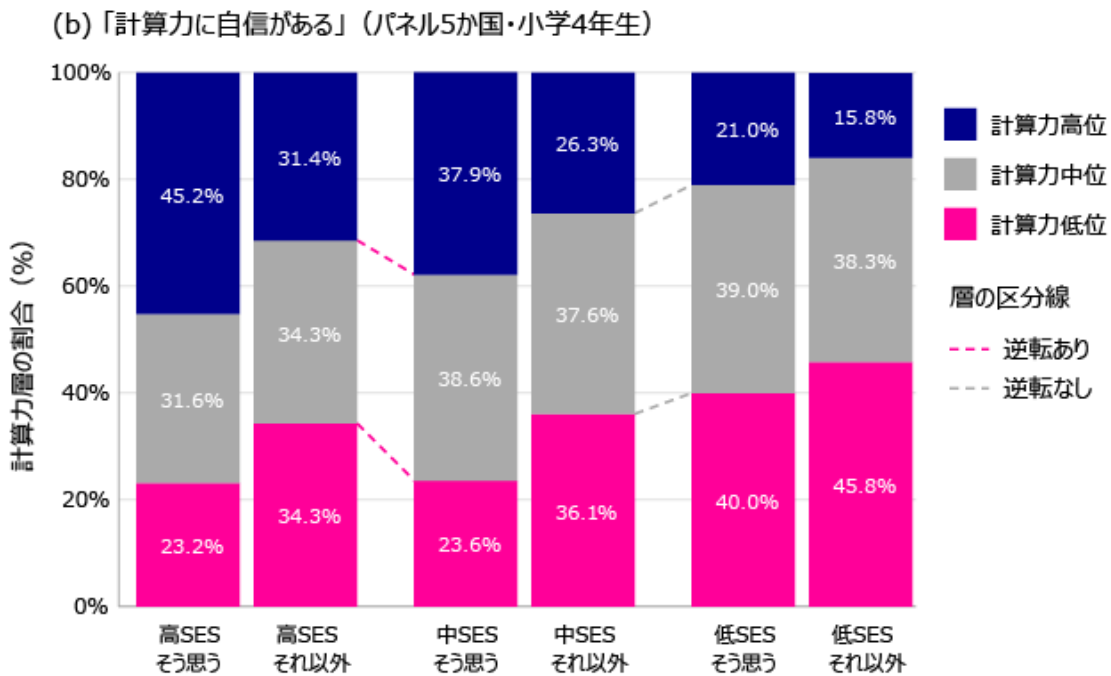
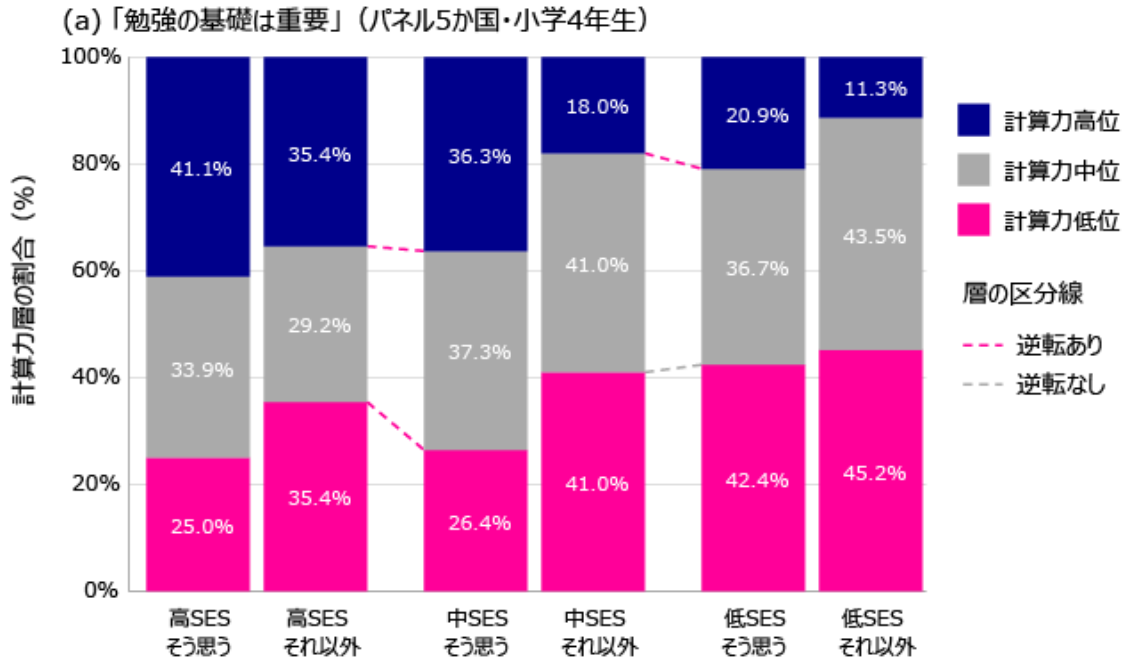
SES層は、「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」を国別学年別に統合・正規化した合成指標により高・中・低の3層に分類。(a)パネル5か国はアメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国。(b)日本。

く見られました。一方、「計算力は大切」などの**基礎学力の重視**に関する設問は、日本でもパネル5か国でもSES層間の差が小さく、**強い相関は見られません**でした。

③ パネル5か国の基礎学力に関する価値観とSES・計算力の相関：SES層によらず基礎を重視しているほど、計算に自信があるほど計算力が高い傾向

図A3に「(a) 勉強の基礎は重要」「(b) 計算力に自信がある」に対して「そう思う」と回答したパネル5か国の小学4年生の割合を**計算力層別・SES層別**に示しました。

パネル5か国でも日本と同様、どのSES層でも「**基礎を重視しているほど計算力が高い**」「**計算に自信があるほど計算力が高い**」傾向がみられました。日本（本文図2(a)、図2(b)）と比べると、**低SES「そう思う」と高SES「それ以外」の差は小さく、より縮小できている可能性**があります。なお、本文でも触れた通り、計算力が高いことの結果として自信が生まれている可能性も考えられるため、因果の方向は本調査からは言うことができません。



※「それ以外」は「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した合計。

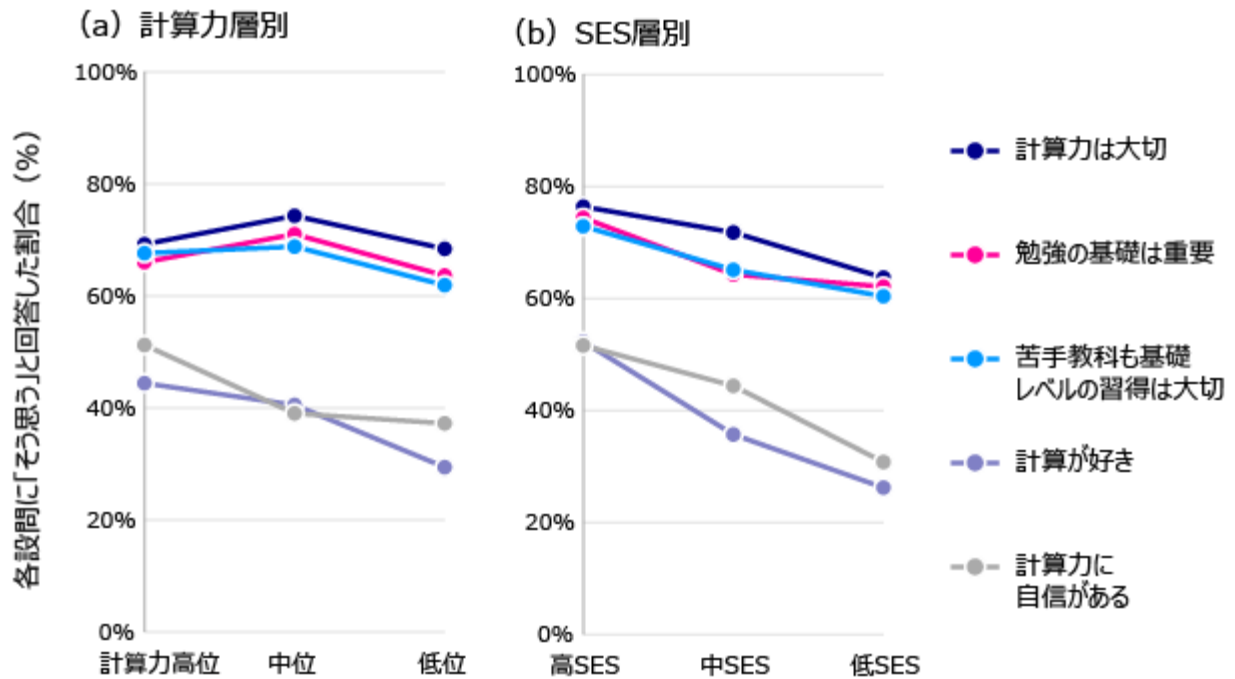
図A3 : SES層別・設問の回答別にみた計算力層の割合「(a) 勉強の基礎は重要」「(b) 計算力に自信がある」(パネル5か国・小学4年生)

設問の回答は、「そう思う」と「それ以外(ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない)」に分類。SES層は「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」を国別学年別に統合・正規化した合成指標により高・中・低の3層に分類。計算力層は、計算テストの正答率が高い順に国別学年別に高位・中位・低位の3層に分類。設問の回答により、SES層間で計算力高位や低位の割合が逆転している箇所は、ピンクの区分線で示す。パネル5か国はアメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国。

## 補足データ

本文中では省略したパネル5か国・中学2年生のグラフを付録として報告します（図B1、B2）。

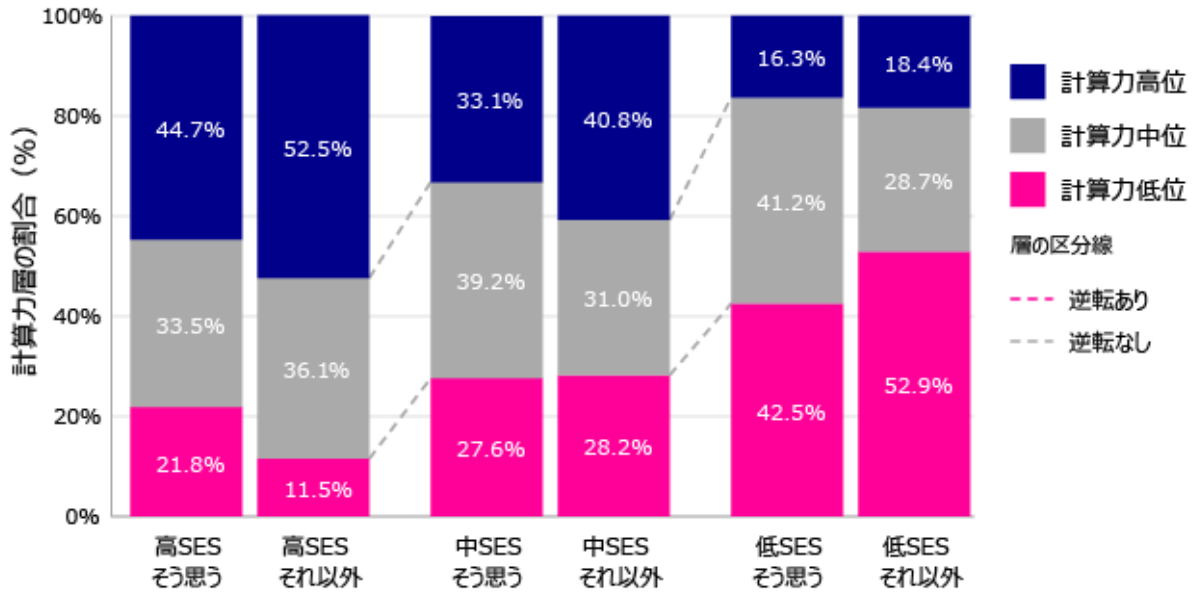
パネル5か国の中学2年生は、SESとの相関が計算力との相関と比べると大きい傾向があり、小学4年生よりも「基礎学力に関する価値観」での逆転はみられていません。学齢が高まると計算力に対して、「基礎学力に関する価値観」よりもSESによる影響が大きくなる可能性を示唆しています。なお、日本の中学2年生はサンプル数が少ないため割愛します。



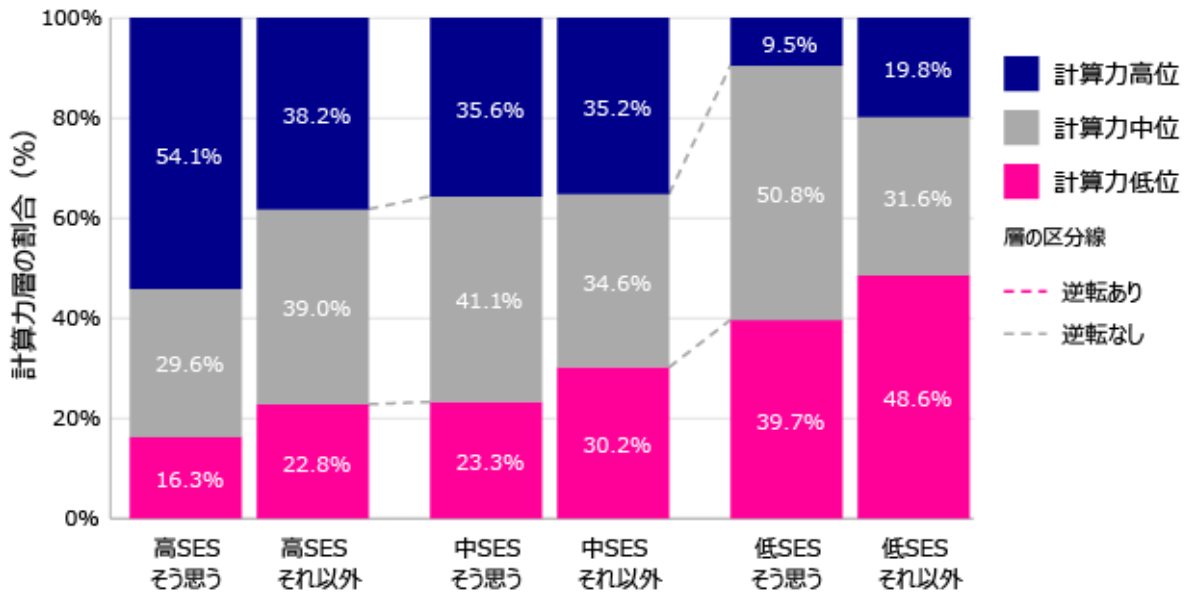
図B1：基礎学力に関する価値観の(a)計算力層別 (b)SES層別の強い肯定の割合（パネル5か国・中学2年生）

SES層は「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」を国別学年別に統合・正規化した合成指標により高・中・低の3層に分類。計算力層は、計算テストの正答率が高い順に国別学年別に高位・中位・低位の3層に分類。パネル5か国はアメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国。

(a)「勉強の基礎は重要」(パネル5か国・中学2年生)



(b)「計算力に自信がある」(パネル5か国・中学2年生)



※「それ以外」は「ややそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した合計。

図B2：SES層別・設問の回答別にみた計算力層の割合「(a) 勉強の基礎は重要」「(b) 計算力に自信がある」(パネル5か国・中学2年生)

設問の回答は、「そう思う」と「それ以外(ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない)」に分類。SES層は「世帯年収」「教育費」「保護者の大卒率」「家庭の本の数」を国別学年別に統合・正規化した合成指標により高・中・低の3層に分類。計算力層は、計算テストの正答率が高い順に国別学年別に高位・中位・低位の3層に分類。設問の回答により、SES層間で計算力高位や低位の割合が逆転している箇所は、ピンクの区分線で示す。パネル5か国はアメリカ、イギリス、フランス、南アフリカ、中国。

## スプリックス教育財団および調査会社の説明

### 公益財団法人スプリックス教育財団 (<https://sprix-foundation.org/>)

公益財団法人スプリックス教育財団では、金銭的な理由による学習機会の喪失を防ぐため、支援を必要とする若い世代への奨学金の支給を行います。また調査研究事業として、教育の側面から諸問題に対する調査・研究を行い、これらの問題を社会で考える足掛かりを提供したいと考えています。

東京本部：東京都渋谷区桜丘町1-1 渋谷サクラステージSHIBUYAタワー22F

### 株式会社クロス・マーケティング (<https://www.cross-m.co.jp/>)

株式会社クロス・マーケティングは東証プライム上場企業「クロス・マーケティンググループ」のグループ企業です。

クロス・マーケティンググループが保有するリサーチ機能の根幹に位置し、データマーケティング&インサイト領域において生活者理解のためのマーケティングリサーチ事業、生活者データの効率的な収集・活用を推進するデータマーケティング事業を幅広く展開しています。

### 国際基礎学力検定TOFAS (<https://tofas.education/jp/>)

TOFASは、世界各国で実施されているグローバルなオンライン検定試験です。国際的な実施により、児童・生徒や教育機関にとって世界レベルでの比較が容易になり、グローバル化時代における貴重な知見となっています。

実績：実施した国数51国、受験者数1500万、学校数2000校以上。現在20言語以上に対応しています。  
(2025年時点)